

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

震災復興ふるさとゆめ議会（宮城県七ヶ浜町）

取組の概要

○小学5年生から中学生3年生のこどもたち自身が議員役となり、七ヶ浜の街をよりよくするため、日頃から感じる事、疑問に思うことなどを街づくりの案に変え、町長さんの前で発表する。



○事前に調査したデータをまとめ、街づくり案を大きな模造紙に描き説明

- ・「笑顔あふれる、元気な街に。」
- ・「たくさんの支援に対して感謝の気持ちを伝えよう。」
- ・「節電をしよう。」
- ・「避難経路の看板を作りたい。」



○緊張で笑顔も見られなかった子供たちが、自分たちが今回の震災で何を感じ、こういう理由で「七ヶ浜をもっとこうしたいんだ」と落ち着いて、堂々と話す姿に会場は釘づけに。



○自分たちの身近なところから、できることを見つけ、形にしようとする子供たちの姿。「震災復興」という言葉に濁され、大人たちが忘れがちな、ごくごく当たり前のことを子供たちは訴えます。

子どもたちの感想

- ・緊張しました。
- ・自分たちが考えたことが少しでも町の役に立ってほしいです。
- ・町長さんに、自分たちの想いは届いたと思います。

企画者の感想

この日に出た子供たちの案で是非、未来の七ヶ浜を彩ってほしい。
しかし、形にするためには、子供たちだけでなく、大人の手も必要です。子供たちが大人になっても、自分たちの七ヶ浜を引っ張っていきたいと思えるように、まずは今の大人たちが、子供たちの声に耳を傾け、子供たちにアイディアの実現への可能性を広げてあげたい。



震災復興ふるさとゆめ議会の様子